

# 環境問題は三豊市民 全員参加で取り組もう

～ 21世紀の子どもたちへ

私たちは命と地球をリレーしています～

「地球は、祖先から受け継いだものでなく、未来の人達から預かったものだ。」

(ロバート・F・ケネディ, Jr.)

「人類の歴史の中で、これほど短期間に、自分たちを支える生態系を破壊した時代はなかった。」

(元国連アナン事務総長)

という言葉がありますが、私たちは今、「未来の人たちへの責任」を強く問われています。

どうすればこの豊かさを維持しながら、この美しいまち《三豊市》と美しい星《地球》を次の世代にリレーできるのか、皆さんといっしょにシリーズで考えて行きたいと思います。

## まちづくりの主役は

## 私たち市民になった

戦後、国家官僚が主導する中央集権のもとで発展してきた日本が今、四方八方行き詰まり状態になっています。

この間私たち市民は、何かを与えられる「お客」として行政に期待をしていました。

しかし、私たちが「お客」としてやって行くのはある意味で楽ですが、大きなコストがかかります。そのことが行き詰まりの原因のひとつです。

私たちは、もう自分で判断し、行動もできる能力を十分にもっているのです。

## やってきた地方の時代

みんなが主役として参加し、発言し、行動する時代になりました。それが「地方の時代」です。そしてこの地方の時代こそ、混迷する日本の将来に明るい光を投げかけるものなのです。そして、みんなで進める自立型のまちづくりが求められている地方の時代では、同時に主役である私たちに、応分の責任ある行動が求められています。

## 《もったいない》はどこへいった

戦後ひたすら欧米に追いつけ追い越せと、経済成長を第一主義に発展してきた日本ですが、原材料がどこから来て、廃棄物がどこへ行くのかみんなは知りません。地球という星をバリバリ食べて、食べ残しを何も考えずどんどん捨てていることを忘れていきます。鎖国

政策がとられていた江戸時代は、ものをすべて利用し尽くした循環型社会を形成していました。そこで醸成された思想《もったいない》は循環型社会にはなくてはならないキーワードでした。



《もったいない》は、ものを大切にする思想で《ケチ》とは異なります。江戸時代は地球環境から言えば、すばらしい考え方や生活様式が存在したのです。江戸時代とは違って現代は広く世界と交流していますが、考えれば世界も地球という一つの星の中だけに限られた空間です。私たちは循環型社会を作り、地球という限られた空間の中で生きていることを理解しないと、資源はすぐに枯渇してしまいます。《もったいない》の考え方は、世界に誇るべき日本文化なのです。

## 少しだけ生活の仕方を

### 変えましょう

私たちが経済成長の中で手に入れた便利さと快適さを手離さず、かつ子孫に持続可能な世界を引き継ぐのなら、ここで少し生活の仕方と考え方を変えなければなりません。

決して難しいことはありません。たとえば《もったいない思想》を復活させるとか、「少しだけ」変えればいいのです。今こそみんなでこの少しだけに挑戦しようではありませんか。

## 西洋の個人主義には必ず

### パブリックマインド(公の心)の

### 思想がついている

作家の司馬遼太郎氏は、折につけ日本人のパブリックマインドの欠如に触れています。人生は個と公から成り立っており、個の世界だけでは成り立ちません。戦後、西洋から入ってきた個人主義の思想をみんな少し取り違えています。個人主義は「自分さえよければ」の勝手主義ではないのです。「個人の自由が保障されるのは公の心があつてこそ」というのが西洋の個人主義です。公園や道路をはじめ、公共のものは市役所のものでなく実はみんなのものなのです。

## やればできる!! やらないだけ

すでに地球温暖化をはじめ環境問題は「やらなくても勝手でしょ」ではすまない状況にあります。ここで方向を少し変えなければ、

私たちの築き上げてきた豊かであつたはずの大量消費物質経済時代は、後世の歴史家に「環境破壊の時代」「大絶滅の時代」と呼ばれることになるでしょう。このままでは私たちは環境破壊の加害者であると同時に、私たちの子孫を巻き込んだ被害者になるのです。身近な所から環境意識をもって行動しましょう。やればできます。

## 上高地はなぜ

### 日本一美しいのでしょうか

上高地は信州の穂高の山々に囲まれ梓川の流れを大正池で受ける日本有数の景観地です。夏は一日2万人もの観光客がこの狭いところを訪れます。ところが上高地にはゴミはもろん、たばこの吸い殻ひとつ落ちていません。上高地のある旧安曇村が旅行会社等に地道に働きかけ、ゴミの持ち帰り運動を観光客にお願いしていったところ、観光客みんながそれに賛同して

実現しました。《私たちはやればできる》の素晴らしい実例です。こうして上高地は美しいまま受け継がれています。



## 三豊市の子どもたちの誇りは このまちの美しい自然です

8月に実施した「三豊の未来づくり子どもアンケート」に回答した市内の小中学生3,488人のうち1,941人が三豊市のなかで大切にしたいもの・自慢できるものに自然・景観をあげています。三豊市の持つ美しい自然と景観こそ、子どもたちが誇りに思っているものなのです。

ところが、子どもたちが自慢している美しい三豊市の自然を取り巻く地球環境が急速に崩れつつあります。私たちはこの環境を少しでも立て直し、未来につないでいく責務があります。そして、誇りある美しいまち三豊市を、後に続く世代にバトンタッチしていきたいと心から願います。

(文責 三豊市長 横山忠始)



次回は、「地球温暖化」についてお知らせします。